

平成25年度

事業計画書

収支予算書

公益財団法人国立京都国際会館

# 平成25年度 事業計画書

## 1. 平成24年度事業概要と収支見込み

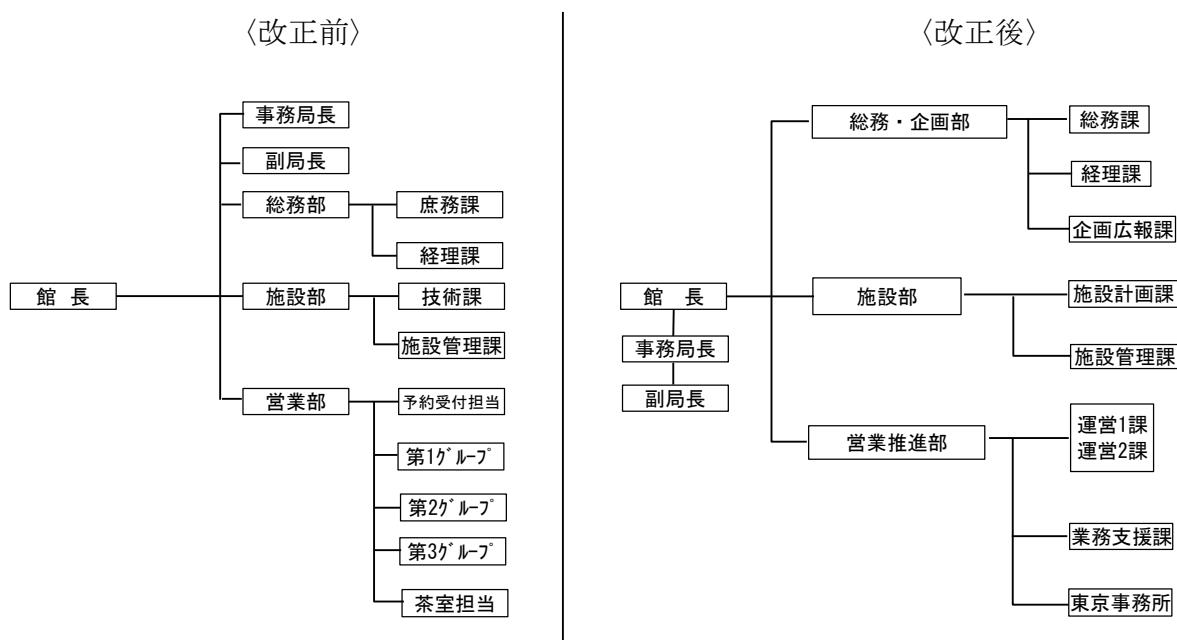
### (1) 概況

#### ア 組織改正

6月、効率的かつ機動的な事務運営を行うため、以下のような考え方にに基づき、事務局の組織改正を実施するとともに、あわせて硬直化している人事ローテーションの見直しを行った。

- (ア) 課長職を中心に人事異動を実施し、組織の活性化を図る。
- (イ) 館長、事務局長、副局長間の連携・一体感を強化し、トップのリーダーシップ・ガバナンスが発揮されることを目指す。
- (ウ) 総務部系については、広報及び会館のビジョンや基本戦略を企画する部署を新設する。
- (エ) 施設部系については、長期的な建設修繕計画等を立案する部署と日常的施設管理に当たる部署との二つを設け、役割や機能の明確化を図る。
- (オ) 営業部系については、施設部系から会議運営に関する支援業務を行う部署を移管し、お客様利便の向上と営業との連携を図る。

< 参考：事務局組織図 >



## イ 自主企画事業及び広報の充実

地域社会との絆の強化及び国際会館からの情報発信として今年以下は以下の取組を行いました。

### (ア) 自主企画シンポジウムの開催

2012年会館自主企画シンポジウムは、「若者よ、世界に飛び出そう！」をテーマに世界で活躍しておられる方々を講師に迎え、シンポジウムを開催しました。

第1回 2012年4月14日 元国連事務次長 明石康氏講演会

第2回 2012年5月26日 デザイナー・プロデューサー 山本寛斎氏講演会

第3回 2012年9月22日 元参議院議員・環境庁長官 広中和歌子氏講演会  
及び学校法人立命館副総長モンテ・カセム氏との対談

### (イ) 乾杯の夕べ

～ ロシアへの思いを馳せて ～ 開催日時：2012年7月27日～28日

1997年地下鉄烏丸線の国際会館駅までの延伸を記念し、真夏の2日間、会館を市民に開放し、毎年一つの国・地域をテーマに取り上げ「乾杯の夕べ」として実施しています。今年は「ロシア」をテーマに16回目を数えました。

### (ウ) 宝松庵茶会

1984年春に始まって以来、毎年春・秋2回の恒例の催しで、当会館が主催しています。

第53回 2012年 4月30日 約600人参加

第54回 2012年11月23日 約600人参加

### (エ) 広報誌

開かれた国際会館をめざして、当会館の情報発信と会議誘致のための広報誌「ICCKyoto」を日本語版年4回、英語版年1回を発刊しました。

### (オ) 国際会館WEBサイトのトップページリニューアル

国際会館をアピールする重要なツール媒体として、需要の多い日本語版ホームページのリニューアルを行い、お客様に利用しやすくいたしました。

## ウ 施設拡充計画

施設拡充計画（多目的ホールの建設計画）につきましては、平成22年から行ってきた調査について引き続き24年においても国交省観光庁にて事業化に向けた調査が行われています。尚、本年9月には平成25年度概算要求として、国立京都国際会館については、平成24年度実施の国費を投入しないPFI事業手法の検討調査結果を踏まえ、事業化の予算要求が項目として提出され、現在、来年度の予算化が検討されています。

## エ 人材育成等

国際会館を取り巻く環境の変化に即応し、国立の国際会議場の運営を担う公益法人としての役割と使命を着実に果たしていくためにはそれを担える人材の育成が重要であり、その一環として各界、各層でご活躍されている有識者、専門家を招き研修会と位置付け意見交換を行うなど毎月シリーズで実施しています。

## オ 経費節減及び業務の効率化

全館を挙げての下記の項目について、徹底した経費の節減を行うとともに従来の考え方に捉われない斬新な視点での業務の見直しに取り組んでいます。

### (ア) 経費削減面

- ① 両面コピーの推奨及びカラーコピーの縮減
- ② 名刺裏面の英文印刷の縮減
- ③ 電話交換業務委託の見直し
- ④ 節電
- ⑤ 公共交通機関の利用による出張交通費の縮減
- ⑥ 事務用品・備品・設備品の更新の延伸
- ⑦ 発注業務・管理委託契約の見直し

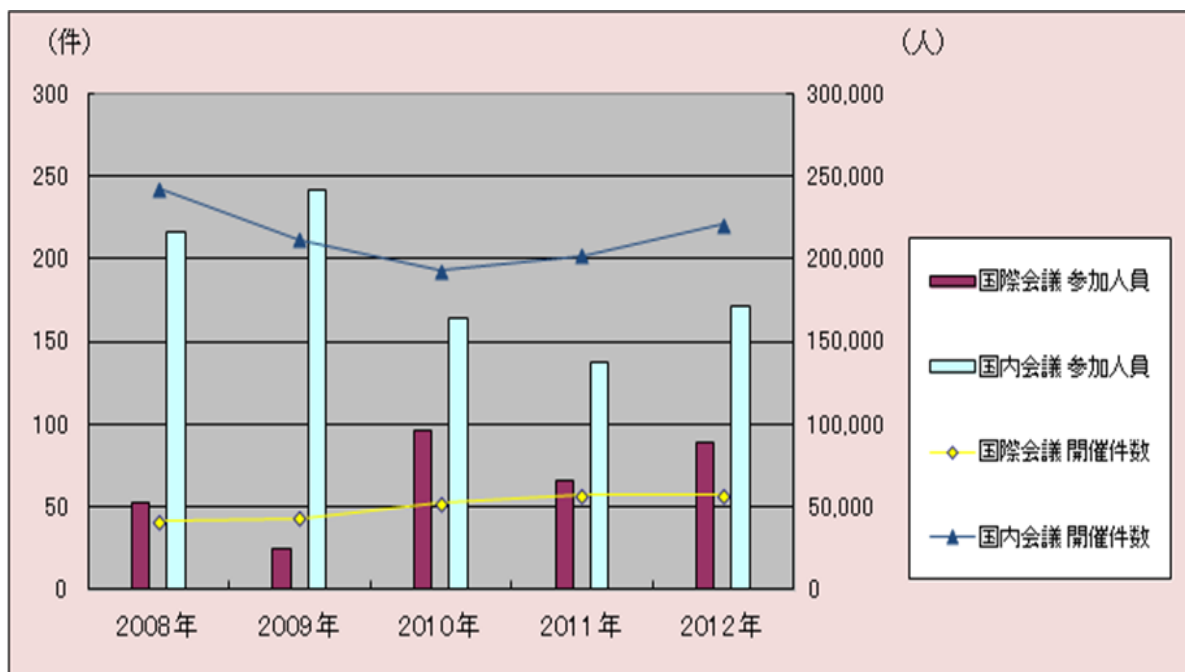
### (イ) 業務効率化面

- ① 「グループウェア」システムの導入による情報の共有化・一元化と日常業務の合理化及び質の向上
- ② 出張許可申請承認手続きの簡略化
- ③ 業務のアウトソーシング化の検討

## (2) 会議開催状況

平成 23 年度は、3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響もあり、参加者数が伸び悩みましたが、平成 24 年度は海外からの参加者数も大幅に増え、国内会議の開催件数も増加しています。具体的には、平成 24 年度は平成 23 年度と比較して、国際会議の件数は 57 件と同数開催見込みですが、国内会議は 202 件から 221 件と 19 件の開催増見込みとなっています。また、参加者数は、国際会議が 88,298 人（見込み）、国内会議が 170,906 人（見込み）、合計 259,204 人と、平成 23 年度の参加者数 202,637 人から大幅に増える予定です。

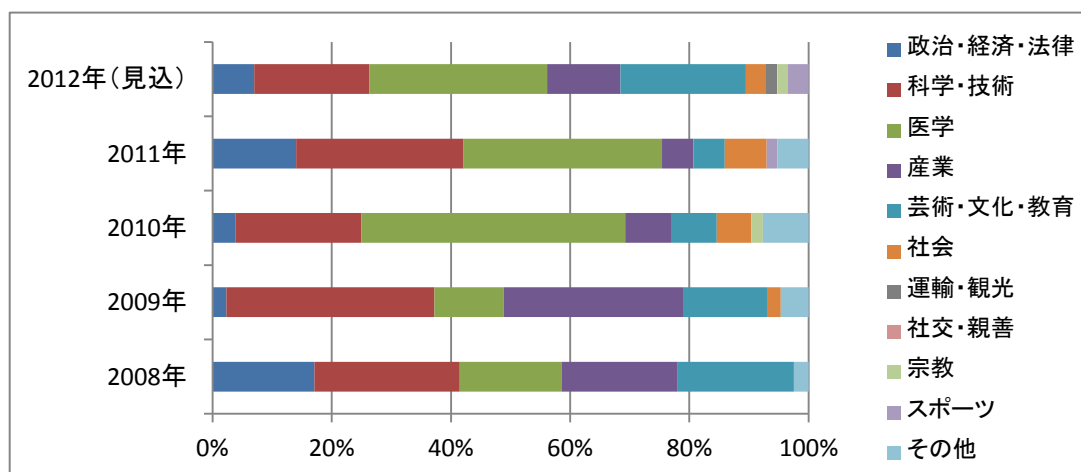
		平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年見込
		2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年見込
国際会議	開催件数	41	43	52	57	57
	参加人員	52,014	24,770	95,477	65,841	88,298
国内会議	開催件数	243	212	193	202	221
	参加人員	216,552	241,600	164,367	136,796	170,906
合 計	開催件数	284	255	245	259	278
	参加人員	268,566	266,370	259,844	202,637	259,204



## ア 開催会議のテーマ別分析

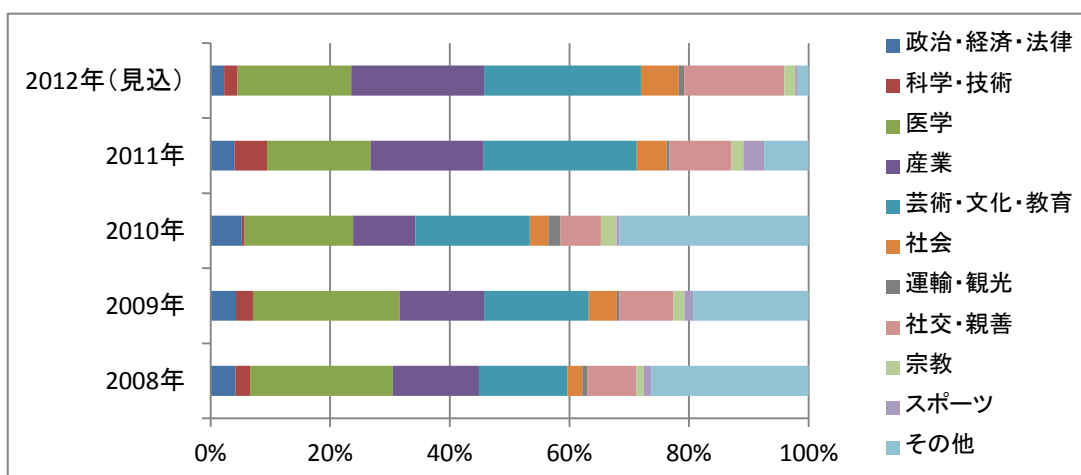
### ○ 国立京都国際会館で開催された国際会議の内容

区分	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年(見込)	(件)
政治・経済・法律	7	1	2	8	4	
科学・技術	10	15	11	16	11	
医学	7	5	23	19	17	
産業	8	13	4	3	7	
芸術・文化・教育	8	6	4	3	12	
社会	0	1	3	4	2	
運輸・観光	0	0	0	0	1	
社交・親善	0	0	0	0	0	
宗教	0	0	1	0	1	
スポーツ	0	0	0	1	2	
その他	1	2	4	3	0	
開催件数合計	41	43	52	57	57	



### ○ 国立京都国際会館で開催された国内会議等の内容

区分	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年(見込)	(件)
政治・経済・法律	10	9	10	8	5	
科学・技術	6	6	1	11	5	
医学	58	52	35	35	42	
産業	35	30	20	38	49	
芸術・文化・教育	36	37	37	52	58	
社会	6	10	6	10	14	
運輸・観光	2	1	4	1	2	
社交・親善	20	19	13	21	37	
宗教	3	4	5	4	4	
スポーツ	3	3	1	7	1	
その他	64	41	61	15	4	
開催件数合計	243	212	193	202	221	



## イ 主な国際会議

	会 議 名	開催期間	参加人数
1	第85回日本薬理学会年会	3. 14～3. 16	2, 430
2	2012年IEEE音響音声信号処理に関する国際会議	3. 25～3. 30	1, 700
3	第13回世界精密鑄造会議	4. 15～4. 18	300
4	第85回日本整形外科学会学術総会	5. 17～5. 20	10, 240
5	国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会	6. 4～6. 8	1, 403
6	第63回日本東洋医学会学術総会	6. 29～7. 1	2, 500
7	第48回日本小児循環器学会総会・学術集会	7. 5～7. 7	1, 881
8	第15回国際分子植物微生物相互作用学会	7. 29～8. 2	948
9	比叡山宗教サミット25周年 世界宗教者平和の祈りの集い	8. 3～8. 4	1, 278
10	世界子どもエコサミット2012	8. 7	206
11	第1回国際アロマセラピー会議・第15回日本アロマセラピー学会学術総会	8. 31～9. 2	1, 000
12	第40回日本磁気共鳴医学会大会	9. 6～9. 8	1, 702
13	第19回国際質量分析会議	9. 15～9. 21	1, 800
14	2012年国際固体素子・材料コンファレンス	9. 24～9. 27	1, 000
15	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第9回年次総会	10. 7～10. 9	1, 000
16	第74回日本血液学会学術集会	10. 19～10. 21	5, 500
17	第66回日本臨床眼科学会	10. 25～10. 28	7, 500
18	第8回SPIEアジア - パシフィックリモートセンシング会議	10. 29～11. 1	300
19	世界遺産条約採択40周年記念最終会合	11. 6～11. 8	600
20	第28回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11. 10～11. 12	3, 000
21	第40回日本救急医学会総会・学術集会	11. 13～11. 15	4, 000
22	第11回温室効果ガス制御技術国際会議	11. 18～11. 22	1, 600
23	第9回国際糖尿病連合西太平洋地区会議・第4回アジア糖尿病学会学術集会	11. 24～11. 27	5, 000

24	第59回日本臨床検査医学会学術集会 臨床検査機器・試薬 総合展示会2012京都大会	11.29～12.2	3,070
25	第19回ディスプレイ国際ワークショップ/アジアディスプレイ2012	12.4～12.7	1,300

## ウ 主な国内会議等

	会 議 名	開催期間	参加人数
1	第15回日本病態栄養学会年次学術集会	1.14～1.15	4,066
2	第50回関西財界セミナー	2.9～2.10	750
3	国際ロータリー第2650地区2011～2012年度地区大会	3.31～4.1	2,800
4	第1回自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」 明石康氏講演会	4.14	100
5	第29回社団法人日本臨床内科医会総会	4.15	1,000
6	ライオンズクラブ国際協会335-C地区第58回年次大会	4.21	2,000
7	国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョン第26回リジョン大会及び2011年度分科会	4.24	2,500
8	アート京都2012	4.27～4.29	5,000
9	第53回（平成24年春）宝松庵茶会（自主企画）	4.3	600
10	第2回自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」 山本寛斎氏講演会	5.26	100
11	第111回日本皮膚科学会総会	6.1～6.3	5,300
12	乾杯の夕べ2012～ロシアへの想いを馳せて～	7.27～7.28	3,500
13	平成24年度 子どもを共に育む 未来づくり教育フォーラムin京都	8.6	2,500
14	第60回日本PTA全国研究大会京都大会 第38回日本PTA近畿ブロック研究大会京都大会	8.25	8,000
15	第3回自主企画シンポジウム「若者よ、世界へ飛び出そう！」 広中和歌子氏講演会	9.22	100
16	第12回スルッとKANSAIバスまつり	9.23	24,000
17	第17回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9.29～9.30	3,000
18	第43回日本看護学会「看護管理」学術集会	10.2～10.3	2,300
19	第65回済生会学会・平成24年度済生会総会	10.13～10.14	2,600



20	第14回商工会女性部全国大会 in 京都	10.16	2,300
21	古典の日推進フォーラム2012	11.1	1,800
22	第36回日本死の臨床研究会年次大会	11.3~11.4	3,000
23	第50回近畿公立学校教頭会研修大会	11.16	2,000
24	第54回（平成24年秋）宝松庵茶会（自主企画）	11.23	600

## エ 主要会議の概要

### (ア) 第 85 回日本整形外科学会学術総会 (平成 24 年 5 月 17 日～5 月 20 日)

「伝統と創意未来に向けた整形外科の飛躍」を開催テーマに、国際会館とグランドプリンスホテル京都を会場として、海外 16 カ国、152 人を含む 10,240 人の参加者が集い、活発な議論が行われました。スペースの不足を補完するために、駐車場に 2 棟の特設会場（仮設テント）が建設され、参加者受付やポスターセッション、企業展示が盛大に行われました。



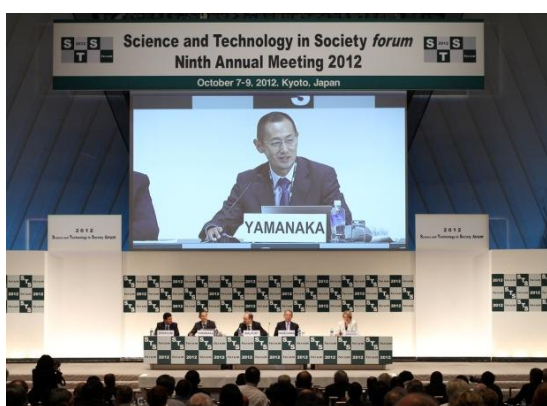
### (イ) 比叡山宗教サミット 25 周年「世界宗教者平和の祈りの集い」 (平成 24 年 8 月 3 日～8 月 4 日)

世界三大宗教（仏教、キリスト教、イスラム教）を含む 13 カ国、1,278 人の宗教団体代表らが集まり、議題として、世界平和や紛争解決から、今回初めて自然災害や東京電力福島第 1 原発事故をテーマに議論されました。今年、1987 年の「比叡山宗教サミット」から 25 周年に当たり、国際会館にて 5 年ぶりの開催となりました。



(ウ) 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)第9回年次総会  
(平成24年10月7日～10月9日)

2004年に創設されたSTS (Science and Technology in Society) フォーラムは人類の叡智を結集し、科学技術を適切にコントロール・発展させていくことを目的として、ノーベル賞受賞者や科学者、研究者、各国科学技術担当大臣、先端技術開発をリードする民間企業の代表、各国大学学長、メディアの代表が参加し、それぞれの立場を超えて話し合う科学技術版「ダボス会議」と位置付けされています。96の国・地域、国際機関から約1,000名の参加者が参加し、いかにして科学技術の「光」を伸ばし「影」を克服していくか、いかにしてイノベーションを促進していくかについて議論がなされました。「世界の保健問題」をテーマにした全体会議では、民間企業が特許を取得した場合のコスト高が、新たな医療技術の普及を妨げてしまう問題を提起されました。



※上記の写真の著作権はSTSフォーラムに帰属いたします。

(エ) 世界遺産条約採択40周年記念最終会合  
(平成24年11月6日～11月8日)

日本政府（外務省、文化庁、環境省、林野庁）主催、ユネスコ世界遺産センターの協力の下、3日間で60カ国から約600人が参加し、世界遺産の保全と地域の生活水準を両立させる取り組みの重要性などをうたった「京都ビジョン」を発表し、国際社会へ情報発信されました。世界遺産条約は1972年の採択で、日本は1992年に批准しています。また、1998年には国際会館で第22回世界遺産委員会京都会議が開催されており、14年ぶりの会議開催となりました。



### (3) 平成24年度収支見込み

平成24年度の収支見込みについては、収入は、秋口からの大型の学会が好調に開催されたことや、平成23年度に震災の影響で見送られた会議で本年度に開催されたものがあったこと等により、前年度に対して増収が見込まれています。

一方、支出については、使用料収入の中に占める音響映像等の機器設備料金の割合が高まっていることから、運営経費が増加していますが、経費節減等に努めた結果、平成24年度の収支見込みは、約4千万円の黒字となる見込みです。

## 2. 平成25年度事業計画

### (1) 概況

平成25年度は、25年度から26年度の2ヵ年にかけて行われる国の集中的な耐震改修工事の初年度に当たり、会議開催に影響が生じ、大幅な収入減が予想されますが、平成24年度後半に緊急営業本部を設置するとともに、従来以上の経費の削減に努力することにより収支差の縮減に取り組むこととする。

耐震改修工事については、国とも協議し、工事期間の集中や防音等の対策に努め、できるだけ会議に支障が生じないよう工程に留意しながら、使用料収入の減を抑制していきます。

### (2) 会議の概要

現時点における平成25年度の当館における国際会議の開催件数の見通しは40件、同じく国内会議等の開催件数の見通しは170件で、合計210件となっています。

平成25年度に開催が予定されています主な国際会議及び国内会議等は以下のとおりです。

#### ア 主な国際会議

	会 議 名	開催期間	参加人数
1	HORIBA 創立60周年式典	1. 26	2,500
2	第43回日本人工関節学会	2. 22～2. 23	1,500
3	第14回国際骨髄腫ワークショップ	4. 4～4. 7	2,000
4	第85日本消化器内視鏡学会総会	5. 10～5. 12	7,120
5	第53回日本リンパ網内系学会総会	5. 17～5. 18	405

6	京都コンピュータ学院創立50周年・京都情報大学院大学 創立10周年記念式典	6.1	2,000
7	第19回固体イオニクス国際会議	6.2～6.7	700
8	第11回世界生物学的精神医学会国際会議	6.23～6.27	3,120
9	CLEO-PR & OECC/PS 2013	7.1～7.5	800
10	2013年度京都国際地理学会議	8.5～8.9	1,200
11	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム） 第10回年次総会	10.6～10.8	900
12	第51回日本癌治療学会総会	10.24～10.26	5,000
13	第29回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11.10～11.12	3,000
14	NACE 東アジア太平洋地域 腐食防食シンポジウム2013（仮）	11.18～11.21	350

## イ 主な国内会議等

	会 議 名	開催期間	参加人数
1	第16回日本病態栄養学会年次学術集会	1.11～1.13	3,600
2	第13回動脈硬化教育フォーラム	2.3	400
3	第16回近畿薬剤師学術大会	2.2～2.3	1,500
4	希少難病フォーラム2013 京都会議	2.16	200
5	第13回日本糖尿病療養指導士認定試験	3.9～3.10	400
6	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	4.18～4.21	5,000
7	第55回（平成25年春）宝松庵茶会	4.29	600
8	日本がん分子標的治療学会学術集会	6.12～6.14	1,000
9	第111回関西地区経済同友会会員合同懇談会	7.26	500
10	第3回小児科専門医・専門医取得のための インテンシブコース	8.10～8.11	484

11	第51回日本生物物理学会年会	10.28～10.30	1,500
12	第53回近畿理学療法学会大会	11.3	2,200
13	第56回（平成25年秋）宝松庵茶会	11.23	600

### （3）耐震改修工事

国際会館の建物は、平成14年度及び18年度に実施された国土交通省の耐震診断により「より高い耐震性能を確保するために耐震改修工事が必要」との判定を受けています。このため、国において耐震改修工事を完成させるための本格的な予算が平成23年度を初年度とする4ヵ年計画において計上されることとなり、特に当会館の中核部分であるルームA会議場、メインホールをそれぞれ平成25年度、26年度における耐震工事で実施することとなっています。工事は、外壁などを中心に一年を通して行われるものの、会館業務への影響をできる限り少なくするため、例年比較的使用の少ない夏の時期に集中的に行うよう工程を組んでいます。

### （4）平成25年度収支見込み

平成25年度の収支見込みにつきましては、支出は、その項目を厳しく見直し、経費節減に努めるとともに業務の合理化にも取り組むこととするが、大規模な耐震改修工事により、工事期間中の使用会場が制限されるため、過去にみられない大幅な減収となり、事業収支については約2億円に近い赤字となる厳しい状況になる見込みです。

### （5）長期ビジョンの策定

本財団が国際会館の運営に携わらせていただいて46年が経過していますが、会館を取りまく現状と課題について整理し、今後進むべき方向について、時間軸をしっかりと認識しつつ中長期のビジョンの策定を行い、会館の目指す方向の明確化を図っていくこととします。

平成25年度 収支予算書

1. 平成25年度 予定貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当 期
<b>I. 資産の部</b>	
1. 流 動 資 産	
現金	6,025
預金	416,524
未収金	154,400
販売物品	150
前払費用	500
仮払消費税	49,380
流動資産合計	626,979
2. 固 定 資 産	
基本財産	
指定正味財産	375,950
一般正味財産	224,050
計	600,000
有形固定資産（通常運用）	
建物附属設備	367,634
車両運搬具	4,822
工具器具備品	365,559
立木	1,000
茶室建物	74,243
茶室附属設備	4,400
茶室備品	3,018
(計)	820,676
減価償却累計額	△ 621,077
計	199,599
有形固定資産（第一次運用）	
工具器具備品	55,725
減価償却累計額	△ 49,701
計	6,024
有形固定資産（第二次運用）	
工具器具備品	20,966
減価償却累計額	△ 20,965
計	1
有形固定資産（第三次運用）	
工具器具備品	53,752
減価償却累計額	△ 53,751
計	1
有形固定資産（第四次運用）	
工具器具備品	112,437
減価償却累計額	△ 111,949
計	488
有形固定資産（随時運用）	
工具器具備品	505,969
減価償却累計額	△ 451,365
計	54,604
無形固定資産	
会議ソフトウェア	11,600
通信加入権	737
(計)	12,337
減価償却累計額	△ 11,600
計	737
基本財産計	861,454
特定資産	
退職給付資金	240,200
特別修繕資金	12,300
資産取得資金	35,000
損失補填資金	485,500
計	773,000
特定資産計	773,000
固定資産合計	1,634,454
資産合計	2,261,433

(単位：千円)

科 目	当 期
<b>II. 負債の部</b>	
1. 流 動 負 債	
未払費用	96,500
前受金	38,600
一時預り金	24,125
職員預り金	10,000
仮受消費税	57,900
未払消費税	5,000
流動負債合計	232,125
2. 固 定 負 債	
保証預り金	60,600
退職給付引当金	240,200
特別修繕引当金	12,300
固定負債合計	313,100
負債合計	545,225
<b>III. 正味財産の部</b>	
1. 指 定 正 味 財 産	
基本財産	375,950
指定正味財産合計	375,950
2. 一 般 正 味 財 産	
基本財産	224,050
事業運営財産	261,454
資産取得準備金	35,000
損失補填準備金	485,500
繰越金	334,254
一般正味財産合計	1,340,258
正味財産合計	1,716,208
負債及び正味財産合計	2,261,433

平成25年12月31日現在



2. 平成25年度 予定正味財産増減計算書内訳表

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益事業				収益事業				法人会計	内部取引 消去	合 計	
	公益1	公益2	共通	小計	収益1	収益2	収益3	共通				小計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
① 使用料	978,340	0	0	978,340	121,660	30,000	28,000	0	179,660	0	1,158,000	
会場使用料	978,340			978,340	121,660				121,660		1,100,000	
飲食施設使用料				0		28,000			28,000		28,000	
駐車場使用料				0			28,000		28,000		28,000	
売店使用料				0		2,000			2,000		2,000	
② 地下鉄連絡通路料				0			6,800		6,800		6,800	
③ 自主企画事業料		5,000		5,000					0		5,000	
④ 基本財産等運用益	9,200			9,200					0		9,200	
⑤ その他収入	0			0		2,200			2,200		2,200	
経常収益計	987,540	5,000	0	992,540	121,660	32,200	34,800	0	188,660	0	1,181,200	
(2) 経常費用												
① 事業費	1,169,963	17,355	0	1,187,318	145,489	6,660	25,331	0	177,480	0	1,364,798	
人件費	317,708	3,721		321,429	39,508	3,721	3,721		46,950		368,379	
委託費	187,530	2,165		189,695	23,320	660	14,660		38,640		228,335	
運営費	524,426	1,383		525,809	65,214	1,313	390		66,917		592,726	
維持管理費	138,604	1,586		140,190	17,236	966	966		19,168		159,358	
地下鉄連絡通路維持費	1,695			1,695	211		5,594		5,805		7,500	
自主企画事業費		8,500		8,500					0		8,500	
② 管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,902	10,902	
人件費				0					0	3,721	3,721	
法人運営費				0					0	5,839	5,839	
維持管理費				0					0	1,342	1,342	
経常費用計	1,169,963	17,355	0	1,187,318	145,489	6,660	25,331	0	177,480	10,902	1,375,700	
当期経常増減額	△ 182,423	△ 12,355	0	△ 194,778	△ 23,829	25,540	9,469	0	11,180	△ 10,902	△ 194,500	
2. 経常外収益												
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
経常外収益計												
(2) 経常外費用												
① 資産取得費	0	0	30,000	30,000							30,000	
経常外費用計	0	0	30,000	30,000							30,000	
当期経常外増減額			△ 30,000	△ 30,000					△ 11,180		△ 30,000	
他会計振替額	0	0	278	278					△ 11,180	10,902	0	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 182,423	△ 12,355	△ 29,722	△ 224,500	△ 23,829	25,540	9,469	0	11,180	0	△ 224,500	
当期一般正味財産増減額	△ 182,423	△ 12,355	△ 29,722	△ 224,500	△ 23,829	25,540	9,469	0	11,180	0	△ 224,500	
一般正味財産期首残高		1,564,758		1,564,758							1,564,758	
一般正味財産期末残高	△ 182,423	△ 12,355	1,535,036	1,340,258	△ 23,829	25,540	9,469	△ 11,180	0	0	1,340,258	
<b>II 指定正味財産増減の部</b>												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
指定正味財産期首残高			375,950	375,950							375,950	
指定正味財産期末残高			375,950	375,950							375,950	
<b>III 正味財産期末残高</b>	△ 182,423	△ 12,355	1,910,986	1,716,208	△ 23,829	25,540	9,469	△ 11,180	0	0	1,716,208	

政府等による国際会議、学術会議等に関する事業

公益目的事業に該当しない催事に関する事業

飲食・宿泊・売店等に關する事業

有料駐車場等に関する事業

### 3. 平成25年度 収支予算書

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	当年度(H25)	前年度(H24)	増 減
使用料	( 1,158,000 )	( 1,438,500 )	( △ 280,500 )
使用料収入	1,100,000	1,350,000	△ 250,000
飲食宿泊施設使用料収入	28,000	40,500	△ 12,500
駐車場収入	28,000	45,000	△ 17,000
その他収入	2,000	3,000	△ 1,000
利息収入	( 9,200 )	( 11,900 )	( △ 2,700 )
基本財産利子	9,100	11,600	△ 2,500
受取利息	100	300	△ 200
その他収入	( 2,200 )	( 600 )	( 1,600 )
地下鉄連絡通路収入	( 6,800 )	( 7,400 )	( △ 600 )
自主企画事業収入	( 5,000 )	( 5,000 )	( 0 )
合 計	1,181,200	1,463,400	△ 282,200

(単位：千円)

支 出 の 部			
科 目	当年度(H25)	前年度(H24)	増 減
人件費	( 372,100 )	( 373,000 )	( △ 900 )
職員給料	220,000	229,300	△ 9,300
期末手当	68,000	70,400	△ 2,400
退職金	21,300	18,900	2,400
通勤手当	8,000	8,000	0
法定福利費	52,800	43,400	9,400
福利厚生費	2,000	3,000	△ 1,000
委託費	( 230,500 )	( 254,000 )	( △ 23,500 )
会場設営費	38,000	46,000	△ 8,000
駐車場費	14,000	20,000	△ 6,000
館内案内費	24,000	35,000	△ 11,000
警備費	34,000	34,000	0
清掃費	46,500	51,000	△ 4,500
電気機械保守費	66,000	58,000	8,000
派遣費・報酬等	8,000	10,000	△ 2,000
運営費	( 596,400 )	( 660,700 )	( △ 64,300 )
電力使用料	39,000	40,000	△ 1,000
ガス使用料	65,000	62,000	3,000
水道使用料	3,500	5,000	△ 1,500
広報宣伝費	7,000	3,000	4,000
通信運搬費	5,800	8,000	△ 2,200
運営用消耗品費	18,000	20,000	△ 2,000
会場運営諸費	458,100	522,700	△ 64,600
管理費	( 160,700 )	( 163,200 )	( △ 2,500 )
修繕保守費	30,000	30,000	0
庭園保守費	26,500	30,000	△ 3,500
交際接待費	2,500	2,000	500
旅費	7,500	8,000	△ 500
事務印刷費	12,000	12,500	△ 500
保険料	2,100	2,000	100
会議行事費	1,500	2,000	△ 500
諸会費分担金	5,000	4,000	1,000
諸費	7,000	2,000	5,000
減価償却費	66,600	70,700	△ 4,100
地下鉄連絡通路費	( 7,500 )	( 7,500 )	( 0 )
自主企画事業費	( 8,500 )	( 5,000 )	( 3,500 )
当期収支差額	( △ 194,500 )	( 0 )	( △ 194,500 )
合 計	1,181,200	1,463,400	△ 282,200